

その他エネルギー

平塚市など、波力発電の企画など手掛ける新会社設立 民間と共同出資の株式会社e-ウェーブR&D

神奈川県平塚市は民間企業などと共同出資し、波力発電の企画などに取り組む「株式会社e-ウェーブR&D」を設立した。波力発電所の建設に関わる企画・調査・設計、発電事業者の高い障壁となる各種の許認可手続き代行、波力発電所の設置による地球環境保全、地域振興に関わるコンサルティング業務に取り組む。今回の発起人となる株主は平塚市のほか、民間企業としてワイテック、東京久栄、サンユウシビルエンジニアリングが名を連ね、さらに個人株主7名も出資している。資本金額は360万円で、各者のうち市の出資金額は10万円。

日本では、風力発電より厳しい許認可手続きが存在し、今後の開発・普及の障壁であるとe-ウェーブR&Dは指摘。同社は国産技術で波力発電「Wave Rudder方式」を実用化し普及拡大させることを目指す。同社によると、国内の沿岸域には10kW/m以上の波力発電ポテンシャルが見込める地域が多く存在するという。波力発電は、建設の手続きが事前届出にとどまるほかの自然エネルギーと異なり、原子力発電などと同じ特殊な発電所として、建設にあたり経済産業省の厳格な認可を受けることを、電気事業法の規定で定められているという。e-ウェーブ

R&Dでは、波力発電を行う発電事業者をサポートする事業を展開する。適地検討、FS実施といった企画・調査、波力発電所・装置の基本設計、詳細設計、協働実施企業間の調整等のプロジェクト管理、工認書等許認可申請や使用前検査・系統連系協議対応などを担当する。平塚市では、これまで2018年から2021年にかけて、環境省のプロジェクトとして45kWの波力発電所の実証が行われた経緯がある。e-ウェーブR&Dなどは今後、2025頃には1基当たり200kW合計3基の波力発電設備を福島県浪江町においてプレコマーシャル設備として建設し、さらにその後2030年には本格的な商業用設備として1地点当たり1,000kW以上の波力発電設備を全国展開することを視野に入れる。この際は発電コストは36円～20円/kWhとさせることを目標とする。

波力発電 (Wave Rudder型) 開発ロードマップ

